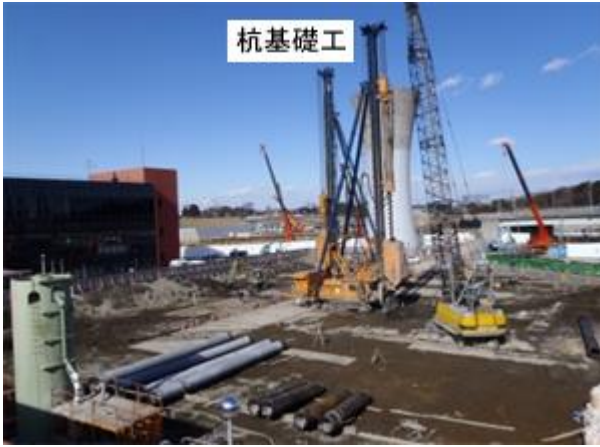


◇ 企業団の高度浄水施設建設工事の特徴 ◇

・その1 耐震性への配慮

北千葉浄水場内にある高度浄水施設建設用地は、地理的条件から大部分が軟弱地盤のため、施設の基礎杭を地下約 30m まで打ち込み、耐震性の強化を図りました。

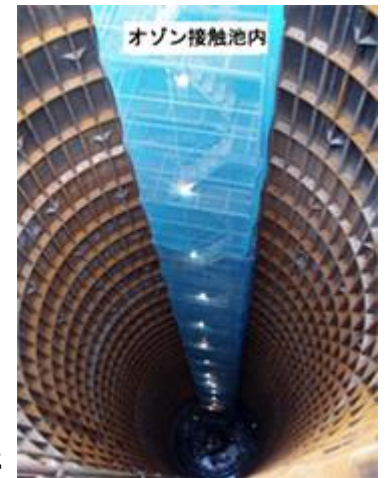


・その2 中間ポンプ施設(中間ポンプ井、中間ポンプ棟)の新設

中間ポンプ施設は、既存の「薬品沈澱池」と「急速ろ過池」の間に新たに配置する高度浄水施設に沈澱処理した水を圧送するために設置するものです。この中間ポンプ施設の築造工事では、設備の大きさやポンプ井の容量などから地下約 20m まで掘削しました。

・その3 下向管方式の採用

オゾン処理に係るオゾンの接触方法は、オゾン接触池の敷地面積が少なくても済む『下向管方式』を採用しています。このため、オゾン接触池の築造工事では掘削深度が地下 40m 以上に達します。



・その4 場内連絡管の布設

既存の浄水施設と新たに建設する高度浄水施設をつなぐ場内連絡管は、現在運転している沈澱池とろ過池の合間をぬった狭いスペースに布設しなければならないなど制約を伴う難工事となるため、安全管理を最優先に慎重に工事を進めました。

